



学校だより

令和6年5月29日

No. 3 6月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

人のかかわりから学ぶ

副校長 永島 裕美

「♪ドレミファソラシド～」校庭からシャトルランの音が聞こえてきました。シャトルランとは、20メートルの距離を音に合わせて何往復走ることができるかを測定する体力テストの一つです。この日は、ペア学年の1年生と6年生が測定していました。6年生が手本を見せた後、1年生が初めて走りました。6年生の手本を見ていたとはいえ、いざ自分が走るとなると、不安になるものです。それを察知した6年生は、ペアの1年生に寄り添って優しくやり方を教えていました。「あの線まで行ったら、こっちに戻ってくるんだよ。」「初めはゆっくりだから、速く走りすぎないように、よく音を聞いてね。」など。安心した1年生は、6年生の声援を受けながら、何往復も走ることができていました。



ペアで活動することのよさは、主に相手を思いやる心情が育まれることです。相手をよく見て、相手のために何をしたらよいかを考えることができるようになります。何かをしてもらった相手には感謝の気持ちが生まれます。さらに、「自分もあんなふうになりたいな。」と憧れを抱き、目標をもって自分を高める力になることもあります。

本校では、2年生と5年生、3年生と4年生もペア学年として活動しています。それぞれの発達段階に応じて、ペア学年の人とかかわる活動することを通して、心情を育んだり、力を身に付けたりすることができるよう取り組んでいきます。

また、子どもたちは、地域の方やボランティアで来てくださった方など多くの方に支えられるとともに、その方々とかかわりからも学びを得ることができています。

先日、6年生の授業に地域の方をお招きし、インタビューをさせていただきました。いつも登下校を見守ってくださったり、学校の備品を直してくださったりしている方です。「ボランティアって、最初は面倒だなと思うこともあったけれど、やっているうちに癖になっていった。」という話から、その方のボランティアをすることに対する思いや考え方にふれることができました。子どもからは「自分もボランティアをやりたくなった。」という感想が多くあったそうです。自分たちを支えてくださっている方の話を直接聞くことができた子どもたちは、地域や社会の一員として生きることに対する考え方を深めることができたと思います。

地域の皆様、保護者の皆様、いつも子どもたちが安心・安全に学校や地域での生活を送ることができるよう、また、健全な育成のためにお力添えをいただきありがとうございます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。